



◀ 監物堤があった牛島地区
(○印は稲垣神社)



▲ 吉野川絵図の一部
(徳島県立図書館所蔵 四国三郎物語より引用)

背景

徳島ではよく知られる吉野川遊園地のある鴨島のまちは、吉野川、江川、飯尾川という三つの川が西から東に流れています。江戸時代には、吉野川がひとたび氾濫すると、この三つの川が一つの川のように流れていました。牛島村（現在の吉野川市鴨島町牛島付近）は洪水の時にはたびたび被害にあっていたところです。そこで村人たちは、岸之上というところに堤を築いて、吉野川の氾濫水の一部を飯尾川に放流し、被害を最小限にとどめていました。この話は、洪水から住民を守るために築堤に命を賭けた「稲垣監物」の行動を描いたものです。

アクセス

稲垣神社

- JR牛島駅より西南西へ直線距離約500m
- 吉野川市鴨島町牛島字中桑上473
- 緯度経度 北緯34度04分28秒，東経134度23分33秒



宝暦年間（一七五一～一七六三）に吉野川が氾濫し、大洪水により岸之上の堤防が崩れてしまいました。少しでも早く堤防を直さないと、またいつ吉野川が氾濫するかわかりません。しかし、その頃は農民たちが勝手に堤防を築いたり直したりはできませんでした。どんなに小さい堤防でも藩の許可が必要だったからです。牛島村（現在の吉野川市鴨島町牛島付近）の農民たちが困っているのを見て、藩に、堤防を補強したいと願った人がいました。稲垣監物という人です。監物は、堤防を直して、水を南の向麻山こうのやまの麓ふもとの方へ放流すれば、牛島村へ水が侵入するのを防げると考えたのです。しかし、藩からの許可はなかなか出ませんでした。その上困ったことに、この監物の計画に対して、向麻山の麓の上浦地区の村人が反対したのです。たしかに、よその村にできた堤防のせいで、自分たちの村に水が押し寄せてきてはたまったものではありません。藩からは許しが出ず、よその村からは反対される。それでも、牛島村は守らなければならない。監物はどんなに悩んだことでしょう。

ある夜ひそかに、村の農民をすべて呼び出すと、一夜のうちに堤防を築いてしまいました。村人たちの喜ぶ姿を見て、監物はほっとしましたが、一緒には喜べませんでした。堤防が完成した朝早く、監物は堤の上のぼると、そこで切腹しました。「村人たちに罪はない。私の一存でやったこと」という思いから、責任を一身に背負って死んだのです。

完成した堤防は、土を掻き寄せたもので、高さ二・三メートル、延長九〇メートルほどでした。この堤防は、稲垣監物の名をとって、監物堤と言われるようになりました。